音楽教育における応用

このHome Concert2000(以下HC)はもともと自動伴奏を目的として開発されました。当初はピアノの学習のためだけに利用することが考えられていましたが、ピアノ以外にも声楽やバイオリンなどの伴奏にも使えるように工夫されてきました。ますます少子化が進む小規模校等における合奏の補助にも使えることが分かってきました。教員養成大学等のピアノ指導にも威力を発揮しますし、ややマンネリ化したML装置の新しい展開や、自動伴奏機能付き電子楽器等にも簡単に応用できます。そこで、今後の展望も含めて様々なHCの利用を提案します。

1, ピアノの練習

初めての曲の自学自習の最も困難な問題は音の間違いのチェックです。通常はピアノ教師が行うこの過程はガイド機能付きの最近の電子キーボードでも可能ですが、「非常に厳密に」(トリルの数まで)チェックできるため熱心でない人間教師よりもはるかに有効に利用できます。ピアノのレッスンの前に家庭でこのチェックを済ませておけば、ピアノのレッスンはもっと本質的な音楽に関わる指導のために使えるようになるでしょう。HCではLearn Modeというのがこの目的のために用意されています。片手だけの練習ではもう一方の手のパートは演奏されますが、練習対象の手のパートは一つでも間違えれば伴奏がストップします。この伴奏は練習中のパートと同じテンポで演奏されますので、両手のタイミングの練習としても使えます。私は現在この機能にヴォイスナビゲーションを付加して「今の音に付けて下さい」とか「付点音符で演奏して下さい」等の声によるコメントを付ける研究をしています。勿論ML教室のような複数の学習者が練習している場合はヘッドホンを利用します。

2台のピアノの為に というような曲の練習には相手方の演奏に絶対服従しなければならないこともあります。そのような場合はJam Modeで練習します。このモードではこちらがどう弾いても相手のテンポは変化しませんから、「アドリブ」の練習などにはとてもよいでしょう。

何と言ってもHCの醍醐味は合奏モードです。Perform Modeと呼ぶこのモードについては既に半年も説明してきましたからもう付け加えることは殆どありませんが、連弾や協奏曲の楽しみを相手のスケジュールを気にしないで心ゆくまで味わうことができます。「通し」と呼ばれる練習ではなく部分だけを取り出して繰り返して練習するのに相手を付き合わせるほどの心臓はありませんが、このHCは「ど

こへでもジャンプ」という機能がありますので、同じ所を何回でも出来るまで繰り返すことができます。その場合一度もコンピュータに手を触れる必要はありません。HCは今どこを弾いているかを知っていて自動的にそこへジャンプしてくれるからです。ジャンプする前に一瞬演奏を止めてこちらの演奏に耳を傾けているようにしてジャンプ先を予想しているのもまるで人間のようです。

2, 非MIDI楽器との協演

前号で紹介した生ピアノとの協演やミュージカル「キャッツ」における音楽等のように、MIDI出力を持たない相手との協演は、例えば少人数の学校における大編成合奏などに応用されます。例えば15人しか生徒が居ないような場合、各パート複数の大編成は殆ど無理です。そこでシンセのような電子キーボードをうまく使うと結構ボリュームが出せます。

<http://www.art.hyogo-u.ac.jp/movie/rupin3.mov>に先日私が編曲して学生が演奏した「ルパン3世」がありますから見て下さい。この演奏では生楽器はトランペット、トロンボーン、アルトサクソ、クラリネット、ピアノ、ドラムセットだけで、それ以外は全てシンセが演奏しています。吹奏楽連盟が何と言おうと小学校や小規模校などではこの方法を使って大いに楽しんで欲しいものです。

この複数のシンセのパートを予めコンピュータに入力して置いてそれを一人で演奏すれば大合奏になるわけです。

小合奏の世界でも、ヴォーカルの伴奏等には大変効果的です。この場合伴奏はピアノ音でなくても良いわけですから状況に応じてオーケストラ伴奏にしてもかまいません。やり方はヴォーカルヴォーカルの旋律線かそれに近いものをチャンネル1に作っておき、後は自分が伴奏する気分はそのパートを鍵盤で弾くというやり方です。この時そのヴォーカルパートの音をピアノのような減衰音にして置いてヘッドホンでモニターすれば、声との重なり具合がよくわかるでしょう。

3, MLのシステムとして

MLは従来トップダウン型で一斉に効率よく指導する道具でしたが、自立型のMLがそろそろ提案され始めています。一人の指導者は同時に一人の生徒しか相手に出来ませんが、自立型では、教師の範奏を含めそれぞれの生徒がそれぞれの異なる教材を使って鍵盤やアンサンブルの練習が出来ます。そのそれぞれの生徒の演奏に親身に付き合ってくれるのがHCのようなソフトです。家庭で一人でも使えるネットMLももう目の前までできています。